

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 10月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	"0173200585		
法人名	有限会社 美深シルバー支援		
事業所名	グループホーム びふか		
所在地	中川郡美深町字南町25番地 (電話) 01656-2-1431		
評価機関名	(有) NAVIRE		
所在地	北見市本町5丁目2-38		
訪問調査日	平成20年9月30日		

## 【情報提供票より】(20年8月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 21 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 19 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7人

### (2) 建物概要

建物構造	木 造 造 り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	16,000円(暖房費10~4月6,000)	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		900 円	

### (4) 利用者の概要( 8 月 1 日現在)

利用者人数	15 名	男性	3 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	71 歳	最高	98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	JA美深厚生病院・名寄市立総合病院・市立土別総合病院・瀬尾医院・松尾歯科・美深歯科
---------	---

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームびふかは、国道40号より少し入った自然豊かな畑作地帯に位置しています。ホーム内には、小上がり風の和室に広々としたリビング、事務室には昔懐かしい薪ストーブ、大きな窓からは畑や山々など自然が見渡せ、居心地の良い空間となっています。また、ホームで作っている菜園ではスイカ・芋・かぼちゃ・大根・茄子・大豆・とうきびなど沢山の野菜を栽培し、利用者と一緒に季節の野菜を楽しんでいます。職員は『地域の中でその人らしく生活していくこと』を常に心掛け日々取り組んでいます。毎年七夕に行う家族会では利用者・家族・職員・地域の人たちと焼肉を行い交流を図っています。一人ひとりの居場所があり、笑いと職員の優しい言葉掛けの中、ゆったりと時間が流れて行く様子が伺えます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題として、職員を育てる取り組み・現状に即した介護計画の見直し・プライバシーの確保は話し合いが行われ、改善されています。災害対策については、地域住民の協力体制が遅滞しています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員はサービスの質の向上を目的とする取り組みと認識しており、自己評価を作成するにあたりミーティング等で話し合い取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は包括支援センター職員・役場職員・自治会長・民生委員・家族会代表・管理者・職員等で構成されており、おおむね2ヶ月に1度開催されています。ホームの運営方針や行事の説明、外部評価についての報告などについて、会議が行なわれています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族への報告は、担当者が手書きの手紙に、季節毎に作成された“びふか便り”や行事等の写真を添えて送っています。また、訪問時にもホームでの様子を伝え家族が意見・苦情など話し易い雰囲気作りを心掛けています。意見苦情等があった場合はミーティング等で話し合い改善に努めています。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し総会にも出席しています。美深夏祭りなど町内の行事にも出来る限り参加しています。クリスマス会には民謡サークルの慰問があり、着物を着た子供達の歌や踊りに大変感激するなど地域の方との交流があります。また、近所の方がホームに遊びに来てくれたり、野菜の差し入れなどの交流もあります。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム内には、『地域の中で、その人らしく生活していくこと』を基にホーム独自の解り易い理念を作り上げ提示されています。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームでは、職員採用時に理念を伝えています。また、日常的に実践できるようミーティング等で話し合い、毎日朝礼時に理念を唱和しています。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し総会にも出席し、散歩・買い物時には近所の人に積極的に挨拶するよう努めています。また、七夕に行う家族会に自治会の方も参加し一緒に焼肉をしたり、普段近所の方が遊びに来るなどの交流もあります。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義を理解しており自己評価に取り組んでいます。外部評価の結果についてもミーティング等で話し合い、改善に向けて検討し取り組んでいます。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、行事の予定と報告・意見要望・外部評価の説明を出席者に報告しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問点・問題点などがあれば市町村担当者と話し合いサービスの質の向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の健康状態や日々の様子を書いた手紙を郵送しています。緊急時にはその都度電話連絡を行い報告しており、面会時にも説明しています。ホーム内には行事等の写真も提示しています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に苦情・意見箱を設置しています。また重要事項説明書に苦情受け機関の連絡先を掲示しています。家族からの不満・苦情があった場合は、全体会議や引継ぎ、検討が必要な内容については話し合いが出来る体制が築かれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が離職する場合、利用者に影響が出ないような言葉かけ等に努めています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会・研修会に多くの職員が参加出来るよう働きかけています。他事業所への研修や、学生の実習生を受入、実習生と共にケアすることで職員の質の向上に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームへ職員が研修に参加したり、他グループホーム職員の受入を行うなどの交流が行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申し込みがあった場合、利用者や家族に対し、ホーム内の見学や6日間ぐらい家族と共に宿泊してもらい雰囲気を感取ってもらい自然に馴染める様工夫しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬し、それぞれの経験からくる技術や生活の知恵を尊び共に支え合う関係である事を大切に支援に結びつけています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活スタイルを崩すことなく、思いや希望を把握する事に心掛けています。意向の把握が困難な場合は、家族と一緒に相談しながら意向の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の希望や家族の意見・要望を取り入れミーティング等で職員同士で話し合い介護計画の作成に努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	2ヶ月毎のモニタリングによる見直しや心身の状態変化を把握し、家族への報告と相談、職員間で話し合い随時介護計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助や送迎支援、買物・美容院送迎の外出支援など、利用者・家族の状況や要望に対し柔軟なサービスの提供がされています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望によるかかりつけ医への受診が出来る様支援しています。必要に応じ家族に電話連絡し情報の共有がなされています。また、看護師による健康管理もされています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化した場合や終末期のあり方について家族に説明し同意を得ています。家族の意向を踏まえ、医師、職員が今後の方針等を共有出来る様努めています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷付けることなく、ゆっくりはっきりと聞き取り易い話し方を心掛けています。また、個人の部屋に入る時にも『失礼します』と声を掛けてから入るようにしています。個人記録の取り扱いにも十分気をつけています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活のペースを大切に、散歩に出掛けたり、体操・カルタを行うなどの支援を行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自分達で育てた豊富な野菜を使ったおかずが食卓に並び、皆の会話が弾むなど食事を楽しめる工夫がされています。利用者の力や状況に応じ、食事の準備や後片付けも職員の見守りの中行っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週4回を入浴日としていますが、利用者の希望に合わせて支援を行っています。また、入浴を拒否する利用者には無理強いせず言葉かけ等気をつけ、入浴を楽しめる様支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で力を発揮出来る様趣味など把握し、洗濯物のたたみや食事の後片付、鍋引きを作るなどそれぞれ役割や楽しみをもてる様支援しています。また、感謝の気持ちも伝えるよう努めています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の気分や体調、天気を考慮しながら日常的にホーム周辺の散歩を行う他、外出の機会としてドライブや買物、地域のお祭りに出掛けています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等の施錠はせず、職員の見守り方法の徹底を図っています。利用者が外に出ようとした場合は、止めるのではなく職員と一緒に外出し自然に戻れるような声かけに努めています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、消防署の協力を得て避難訓練を実施しています。緊急連絡網や緊急時の消防への連絡の手順などは見易い場所に張っており、すぐに対応出来る様努めています。	○	あらゆる場面を想定した訓練が必要だと思われます。早急に町内会または近隣住民との協力体制を築き、ホーム職員のみならず地域の人々と一緒に実践に即した訓練計画を期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員がケア記録を把握し、適切な水分の摂取や食事の摂取量の支援をしています。食事内容については利用者の希望を摂り入れたメニューが提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて花を飾ったり、誕生会や行事での写真の掲示、季節感を感じる工夫を取入れています。大きな窓からは畑や山々が見えて静かな環境を感じられます。不快な音や光がない配慮もされています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から使用していた馴染みの家具・ベット・布団や家族の写真等を持ち込み安心して生活出来る様配慮をしています。		